

技研ニュース

GIKEN-NEWS No.172

財団法人 自転車産業振興協会 技術研究所



1999.11

自転車のISO会議に出席して

平成11年10月7日(木)と8日(金)に、イギリスのコベントリ市で開催されたISO/TC149/SC1/WG4会議に出席しました。コベントリ市はロンドンより北西方向にあって、バーミンガム市に近く古からの工業都市です。会場になった建物と会議の風景を写真1と2に示します。

WG4では、フレームや部品の強度規格の制定、改正を審議します。この場合、迅速に制定しようとして市場からクレームが来ないものと多く来るものものを試験して、前者が合格し、後者が不合格となるような条件を求めることによって決めています。

現在、マウンテンバイクは過酷に使用されるが、その規格がありませんので、制定に向けて精力的に進めています。

日本ではマウンテンバイクは2種類あり、「マウンテンバイク」とその「類形車」です。ISO規格でも2種類ありますが、日本とは少し違います。

グレード1: 走行寿命4万kmのうち、85%をオフロードで使用する。

グレード2: 走行寿命1.5万km(1万kmに変更予定)のうち、25%をオフロードで使用する。

この定義は、日本にとって三つの問題点があります。

1) グレード1の走行距離は、著しく大きな数値です。当所やアメリカのあるメーカーの試験結果では、日本製マウンテンバイクのフレーム体の疲れ寿命が悪くて、グレード2の疲れ寿命しかありませんでした。

2) グレード2は日本の類形車と異なって、オフロードでの走行が認められます。

3) 「グレード」という用語です。これは品質の上下を表していますので、今回も問題となりました。そこで、グレード1と2を「Frequent off-road use (しばしばオフロードで使用)」と「Occasional off-road use (ときどきオフロードで使用)」に変更する案が出ています。

当所では、日本製の部品などをISO規格案で試験してその結果をISOへ送り、また今回、会議に出席して日本の意見を主張しました。なお日本製品ではフレーム体以外は強度的に問題となることが起きていません。

(研究指導部 河治宏泰)



写真1 コベントリ駅前のWG4会議場



写真2 会議風景(中央がSCI議長兼WG4部会長)